平成25年度高岡市公営企業会計決算審査意見

第１　審査の対象

　　　平成25年度　高岡市水道事業会計決算

　　　平成25年度　高岡市工業用水道事業会計決算

　　　平成25年度　高岡市簡易水道事業会計決算

　　　平成25年度　高岡市高岡市民病院事業会計決算

第２　審査の期間

　　　平成26年5月30日から平成26年7月25日まで

第３　審査の方法

審査に当たっては、各会計の決算報告書及びその附属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係職員から決算に

ついての説明を聴取するなどの方法により実施した。

第４　審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

第５　審査の意見

各事業会計についての審査意見は、次のとおりである。

【水道事業会計】

平成25年度の業務状況は、給水人口が150,047人で、前年度に比べ887人(△0.6％)、

行政区域内人口が163,081人で、前年度に比べ1,081人(△0.7％)とそれぞれ減少した

ものの、普及率は92.0％となり、前年度より0.1ポイントとわずかに上昇している。

配水状況では、総配水量が16,063,270㎥で、前年度に比べ336,750㎥(△2.1％)、

有収水量が14,492,977㎥で、前年度に比べ283,381㎥(△1.9％)とそれぞれ減少して

いる。

　これは、給水人口の減少や大口需要者の専用水道への転換などから、水道使用量が

減少したことによるものである。

経営状況は、総収益2,978,210千円に対し総費用は2,883,529千円となっており、

94,681千円の当年度純利益が生じているが、前年度に比べ38,685千円（△29.0％）の

減益となっている。

これは主に、収益面で受託事業収益が増加したものの、給水収益、水道利用加入金が

減少したこと、費用面では、受託事業費や総係費が増加したものの、配水及び給水費等が減少したことによるものである。

また、有収水量１㎥当たりの供給単価は190円89銭で、前年度に比べ40銭の減少、

給水原価は197円2銭で、前年度に比べ80銭の増加となり、１㎥当たり6円13銭の

損失が生じている。（供給単価に対する販売損失割合3.2％）

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は348,980千円(1.4％)の増加、負債は

147,498千円(△20.1％)の減少、資本は496,478千円(2.0％)の増加となり、資産合計

及び負債・資本合計は25,784,766千円となっている。

　当年度は、良質な水の安定供給と地震等の災害に強い水道施設整備の観点から老朽

配水管及び鉛給水管の更新をはじめ、基幹管路である庄川幹線の整備や中田配水池の

耐震補強工事等を実施されたことを評価する。

水需要の増加が見込めない社会情勢ではあるが、水道は快適な市民生活や産業活動を

営むうえで欠くことのできない重要なインフラ施設である。

今後とも、「高岡市水道ビジョン」に掲げる「経営基盤の強化」、「安定給水の確保」、「お客さまサービスの向上」を目標に、「水道施設整備計画」、「業務改善計画」を推進

されるとともに、社会情勢の変化に対応し、経営の健全化と水道の信頼を維持する努力を継続し、より良い水道サービスの提供と安全で安心できる良質な水の安定供給を望むものである。

【工業用水道事業会計】

平成25年度の業務状況は、供給先３社に、１㎥当たり4円30銭の契約単価で工業用水を供給している。

契約水量は7,884,000㎥で、前年度に比べ88,500㎥(△1.1％)減少している。これは、前年度の１月及び２月におけるＪＦＥマテリアル株式会社との契約水量(日量)を

1,500㎥増量していたことによるものである。

経営状況は、総収益34,701千円に対し総費用は31,456千円となっており、3,245千円の

当年度純利益が生じ、前年度に比べ73千円（2.3％）の増益となっている。

また、有収水量１㎥当たりの供給単価は4円30銭、給水原価は3円99銭で、１㎥当たり

31銭の利益が生じている。

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は4,278千円(0.7％)、負債は1,033千円（5.9％）、資本は3,245千円（0.5％）とそれぞれ増加し、資産合計及び負債・資本合計は

620,140千円となっている。

今後、契約水量の増量は多くを望めないと思われるが、経費の節減等により財源の

確保を図り、事業に支障がないよう経営の健全化に努められたい。

【簡易水道事業会計】

平成25年度の業務状況は、行政区域内人口が13,143人で、前年度に比べ33人(△0.3％)減少したものの、給水人口が9,293人と、前年度に比べ77人(0.8％)増加したことにより、普及率は70.7％、前年度に比べ0.8ポイント上昇している。

配水状況では、総配水量が793,859㎥で、前年度に比べ5,241㎥(△0.7％)、有収水量が619,385㎥で、前年度に比べ4,542㎥(△0.7％)とそれぞれ減少している。

経営状況は、総収益148,785千円に対し総費用は153,145千円となっており、4,360千円

の当年度純損失が生じ、前年度に比べ80千円（△1.9％）の減益となっている。

また、有収水量１㎥当たりの供給単価は191円60銭、給水原価は237円53銭で、

１㎥当たり45円93銭の損失が生じている。（供給単価に対する販売損失割合24％）

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は38,836千円(1.5％)の増加、負債は

19,482千円（△46.0％）の減少、資本は58,318千円（2.3％）の増加となり、資産合計

及び負債・資本合計は2,669,778千円となっている。

水需要の増加が望めないなか、給水人口が増加したことは評価できるところではあるが、

現在整備中の南部地区簡易水道事業(平成17年度～平成28年度)給水区域における新たな利用加入を促進することはもとより、これまでの給水区域全体への投資に見合った

有収水量の増加による有収率の伸びを強く望むものである。あわせて施設利用率（配水

能力に対する利用の度合いを示す指標）47.8％の更なる向上を図られ、良質な水の安定

供給の推進と健全経営に努められたい。

【高岡市民病院事業会計】

平成25年度の利用状況は、入院・外来延患者数が361,457人で、1日平均入院患者数は360.6人、1日平均外来患者数は942.0人、病床利用率は75.8％となっている。前年度に比べ、入院延患者数は838人(0.6％)の増加、外来延患者数では528人(△0.2％)の減少、病床利用率は0.5ポイント上昇している。

経営状況は、総収益9,027,281千円に対し総費用は9,079,281千円となっており、

52,000千円の当年度純損失が生じ、前年度に比べ2,578千円(△5.2％)の損失増となっている。内容としては、医業収益のうち入院収益は、入院患者数が増加しているものの、

入院期間が長期化する傾向にある高齢の入院患者の増加や、比較的多くの医療資源を

投入する新規入院患者数の減少により、患者１人１日当たりの診療収入が減少したことで減収となっている。

また、外来収益では、外来患者数は減少したものの、外来化学療法における

新規抗がん剤の使用などにより、患者１人１日当たりの診療収入が増加したことで増収となっている。

　一方、医業費用は、給与・手当の減額措置が行われたことや職員の新陳代謝が図られたことにより給与費が減少したものの、外来化学療法における新規抗がん剤の使用など、

適切な医療資源の投与により薬品費、診療材料費が増加している。

　なお、貯蔵品のうち、各病棟に定数配置している薬品と診療材料をこれまでは費用処理していたが、会計処理方法の変更により、これらを資産計上したことで、適切な在庫管理が行われたことや、資金状況を示すキャッシュフローについても、現金及び預金が前年度に比べ、633,460千円(84.8％)増加しており、これまでの経営努力は大いに評価できる

ものである。今後とも、安定した運用資金の確保に万全を期されたい。

高岡市民病院は、高岡医療圏における中核的基幹病院としての役割が求められている。

このことから、当年度は、看護専門外来を設置し、患者さんやその家族への相談支援

体制を充実されたことや米国フォートウェーン市との医療交流事業の取り組み、

認定看護師の継続的な育成など、医師、看護師及び医療技術者の資質向上が図られたことや、

高度医療機器の更新により医療水準の維持・向上が確保され、患者本位の良質な医療の

提供に努められたことを評価する。

今後とも、市立病院としての地域医療を担う使命を果たすため、平成26年度から

取り組まれる第Ⅳ期中期経営計画に基づく各種事業を着実に実施され、

安心・安全・納得の医療提供、急性期・高度医療の充実、経営の安定化など、病院職員が全力で取り組まれることを望むものである。